

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第 116 号 2016.12.3(土) 発行

関西外国語大学

教職教育センター

SCET

意欲と主体性を持って勉学に励む！

関西外国語大学 外国語学部 教授 岡澤潤次

山は紅葉が日ごとに鮮やかとなり、野には秋桜(コスモス)が風に揺れて優雅に咲いています。間もなく冬の訪れとなり、やがてくる新しい年、新春に向けて夢を描き、紡いで行きたいと考えます。

本誌“羅針盤”が教職をめざす本学の学生や卒業生そして教員が紡ぐ情報誌として13年を経過しました。本年度在校生の“教採”の結果も、例年以上に素晴らしい成果を達成し、関係者の一人として嬉しく思います。小学校教員コースの一期生も教採の受験に臨み、初めてとしてはよく健闘しました。皆さんの努力と教職員全スタッフのご支援に敬意と賛辞を贈りたいと思います。このあと、3月までには卒業生の結果も出揃い、おそらく関西外大の総体としての底力が発揮された結果が出ると推察できます。

本年度、在学生及び卒業生の全合格者総計が200名を超える勢いだとも想定できます。

冒頭記述のコスモスの花ですが、その語源はラテン語で「星座の世界、秩序を持つ完結」と言われています。ところが、今の世の中は真逆で、天変地異、気候変動が激しく、温暖化とともに地震、風水害等災害につながる事象が絶え間なく続く様相です。「これからどうなるのだろう」という不安が募ります。“カオス(ギリシャ神話に由来)”いわゆる“混沌”の時代が現実味を帯びています。自然界も人間社会も想定外のことが多すぎることに驚愕しています。

そこで、私たちは、今、何に期待し、何を求めるかをあらためて深く考えてみたい。日本全体で第二次大戦後、今年初めて総人口が減少し、少子化等危惧される課題を喧しく識者をはじめマスコミから指摘されています。私たちの関係することとして教職員の需要が年々減少する実情が生まれてきています。

その中で、即ち“逆境”の中で、本学教職の採用数(教採合格者数増加を含め)の驚異的な“伸び”については、教職を志し、良い結果を出した方々には、“あっぱれ”というほかありません。

関西外大のセールスポイントの一つとして既に定着している“教職”の実績です。これは、単なる自慢話ではありません。様々な世の中の課題を解決するメインテーマは“教育”が担っているものと自負しています。その使命に関わる教職にポジティブに一丸となるこれこそが私たちの誇りであります。

「つらいことを乗り越えた“自信”一生残る」本学教職に集う学徒は、授業でも、自主ゼミでも仲間を大切にともに支え合い、ともに励ましあい、全身全霊を賭けて精進しています。意欲と主体性加えて協調性と人間性が素晴らしい。

どんな社会の変化にも、環境の場でも前向きに進む人たちだと心より確信しています。

合格者からのメッセージ

今年度は、初めて英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コースの学生が受験をし、合格率52%（合格者12名/受験者23名）と他にはみられない優秀な成績をおさめました。また、その他の学部の学生も例年通りの頑張りを見せ、非常に喜ばしい結果となりました。合格者の声をご紹介します。

【合格体験記】

松川 花純さん 大阪府 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

みなさん、こんにちは！小学校教員コースの松川花純です！来年度から大阪府で小学校教員として働かせていただけることになりました。今回は、試験に向けて頑張っている皆さんに、3点、私が大切だなと思うことを書かせていただきます。

一つ目は、「一刻も早く！苦手は基礎に戻ってつぶす」ということです！誰にでも苦手なことはあると思いますし、それと向き合うのは気分が乗りません。私自身、水泳・物理・歴史・算数の図形など挙げればキリがないほど苦手があり、「こんな嫌や～！やりたくない！」と思う程でした。ですが、今！時間のああるうちに、苦手なものを苦手と認めて、思い切って基礎から見直すことが大切だと思います！というのも、私は、水泳は友達に助けてもらいながら早い段階から向き合っていたものの、歴史は、流れも事柄も分からない上に、勉強方法も分からず、とりあえず問題を解いていました。そのため、試験二か月前になっても、過去問の社会は、ひどいときで七問中一問しか合わないこともありました。ですが、一か月前になって、中学の歴史の教科書を読んで、該当する中学レベルの問題を解いて、を繰り返すと、過去問もどんどん解くことができるようになりました。そのことから、基礎を見直すことは大切だと感じました。

二つ目は、時間の使い方を考えることです。試験に向けて、「あれもしなきゃ、これもしなきゃ。」となることもあるかと思います。その時は、冷静に自分が何をしなければいけないのか全て書き出してみてください。そして、その中で、今何をするのが最適かを考えて、しようと決めたことに集中することが大切です。例えば、学校にいるときは、仲間がいます。ですから、「学校にいるときは、1人ではできないディスカッションや教え合い等をする。1人になったら、ひたすら問題を解く。疲れたら、試験を忘れて思いっきり休憩する。」といったように、時間をうまく使えたらいいなと思います。私は計画を立てるのが苦手なので、上記は先輩からいただいたアドバイスの受け売りですが。

最後に、今まで経験してきたことや、ここだけは譲れないといったような自分特有の考え、生き方等全て、みなさんが教師になったときに生きると思います。自分の生活を振り返って、そこから学んだことや意見をなどを教育に結びつけてみてください。きっと、みなさん自身のらしさや、自分がしたいことが見えてくると

思います。これから先、教師に向いてないんじゃないかな、などと不安になることもあるかもしれませんが、みなさんがみなさんだから、私が私だから、それぞれが子ども達にできることがあると信じています。自分を信じて、仲間と共に乗り越えてください。心から応援しています。

三原 雪乃さん 兵庫県/大阪市 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

この度、兵庫県、大阪市の教員採用試験で合格をいただくことができました。自分の受験番号があったときは、すぐには信じられず、何度も何度も見直すうちに喜びがこみ上げてきました。今回合格できたのは、熱心にご指導して下さった本学の先生方や多くの刺激を与えてくれた仲間の支えがあったからこそ叶ったことだと、今は感謝の気持ちでいっぱいです。

採用試験までには、いろいろ悩んだり苦しんだりしたこともありましたが、私が取り組んだことで、やってよかったと思うことを2つ紹介します。

まず、仲間とつながるということです。採用試験に向けて、筆記試験対策、面接・集団討論対策、模擬授業対策とやることはたくさんありました。しかし、どれをとっても一人で対策をしたものではありません。仲間がいたからこそ、しんどかったことや辛かったことも乗り越えて、頑張り続けることができました。筆記試験の勉強は、わからないところを教えてもらったり、逆に自分が得意とするところは教えることでさらに深めたりしました。何より、仲間と一緒に勉強するということが私のモチベーションアップにつながったと思います。面接や模擬授業の練習は、一人でやるよりも、誰かに見てもらって客観的なアドバイスをもらうことが合格への近道だと思います。いろんな人の考えを聞くことで自分のひきだしも増えます。もちろん自分一人で向き合う時間も必要ですが、ぜひ、一緒に闘う仲間を見つけて教員採用試験に向けて取り組まれることをお勧めします。

次に、自分はどんな人物で、どんな教育をしたいのかを考え、深めることです。私は、角野先生からいただいたフォーマットをもとに面接試験に挑みました。進路指導・生徒指導・学習指導の3つの観点から自分の教育に対する考えや、自分に備わっている強みを整理しました。また、仲間の話を聞いて自分が気づいていなかったこともたくさん付け加えました。しっかり整理をしていたことで、面接官の質問にも自信をもって自分の思いや考えを話すことができました。このフォーマットをもとに考えることで、自分と向き合うことができたと思心の底から思います。来年教員採用試験に受験される方も自分の強みや考えを整理し、面接官に熱く語っていただきたいなと思います。

しっかり準備をしたつもりでしたが、私は心配症な性格もあり、教採が近づくにつれてどんどん不安になりました。模擬授業の課題が難しかったらどうしよう…面接で答えられなかったらどうしよう…など、考えればきりがありませんでした。角野先生から前日に「潔く、元気に明るく！」と応援メッセージをいただいて、「これまで私は頑張ってきたからなんとかなる！」という自信を持つことができました。採用試験にむけて、地道に準備を進めることと、自信を持つことが合格への決め手になると思います。

平川 明美さん 大阪市 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

皆さん、こんにちは！この度、大阪市の小学校教員として採用していただきました、英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コースの平川明美です。今回、このような貴重な機会をいただけたので、来年度教員採用試験を受験する後輩の皆さんに少しでも採用試験にあたって私がしてきたことをお伝えできればと思います。私が特に皆さんにお伝えしたいことは大きく3点あります。

まず1点目は、たくさんの経験を積むということです。私は1回生の時から積極的に子どもたちと触れ合う時間を確保してきました。大学のボランティアプログラムでは、小学生学びングキャンパス、子ども大学探検隊、いきいき、幼稚園ハロウィンイベントに参加してきました。3回生の時には、いきいきのリーダーも経験させていただきました。他にも、自分の母校の小学校で学童の地域指導員として子どもたちとかかわったり、大阪市内の小学校2校でそれぞれ週1回（計週2回）学力支援向上サポーターと特別支援サポーターとして子どもたちの支援をしています。4年間を通して経験してきたことは、採用試験の際に生かすことができましたし、何よりも私自身が成長し続けることのできた貴重な経験だったと感じています。また、子どもたちと関わることで教員を目指すためのモチベーションにもなりました。皆さんもたくさんの経験を積み重ねて、採用試験に臨んでほしいと思います。今からでも遅くはありません！

2点目は、一緒に勉強する仲間を作るということです。私が本格的に自主ゼミを組んで勉強を始めたのは3回生の11月頃でした。ゼミでは、毎回担当の人が小テストを作ってきて問題を解いたり、わからない問題があった時はみんなで考えて解いたり、ディスカッションではいろんな視点から意見を聴くことができるので、自分の視野をひろげることができました。今、こうして採用をいただけたのも、これまで一緒に支えあって頑張ってくれた仲間がいたことも結果だと思います。ゼミのメンバーだけでなく、私の周りには常に一緒に頑張ってくれてくれる仲間がいました。本当に感謝しています。たくさんの仲間とつながることで、心も支えになりますし、採用試験に関する様々な情報も共有することができるので、たくさんの同志とつながってください！

そして最後に3点目。大阪市教師養成講座についてです。私は大阪市教師養成講座を3回生の頃に受験し、合格をいただくことができ、全15回の講座や大阪市内の小学校での現場実習を修了し、教員採用試験の際には1次試験を免除していただくことができました。この養成講座に行くことができたおかげで、2次試験の対策に徹することができました。大阪市以外の受験地でも様々な免除条件や加点制度があります。ぜひ、チャレンジして少しずつでも教員になるという目標に近づいてください。

以上3点が皆さんに伝えたかったです。小さな経験の積み重ねでも、最後には大きな力になります。困ったことや不安に思うこと、相談したいことなどあれば、私たちに何でも聞いてください！皆さんの力になれることがあれば、たくさんの先生方もいるし、私たちもいるし、教職教育センターの方々もいるのでいつでも頼ってくださいね！応援しています！

船津 宏佑さん 大阪府 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

皆さん、はじめまして。英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース4年の船津宏佑と申します。今年度、大阪府公立学校教員採用選考テストを受験し、小学校で合格をいただきました。今回、この羅針盤を通して、これから教員採用試験の受験を考えている皆さんの力に少しでもなれればと思い、私が教員採用試験で取り組んできたことを3つ紹介させていただきます。

①決して1人で採用試験を乗り切ろうとしないこと

私は普段、ひとりで勉強することが好きです。ですが、教員採用試験では、面接や討論といった一人では対策のしようがないものが待ち構えています。そこで、私は同じ教師になりたいという志をもった仲間と共に勉強をしたり、教育時事について語り合ったりすることで、自らの考えの幅を広げることにも努めました。ひとりで黙々と自己研鑽することも大切ですが、仲間と共に乗り越えることが重要になると思います。そのために、夜スベや自主ゼミを組むことをオススメします！

②関西外大の環境を存分に活用すること

6号館（ICC）はとても綺麗で、しかも採用試験に役立つ本や雑誌がたくさんあります。さらに、手厚く指導してくれる先生や親身になって力を貸してくれる教職教育センターの方がいらっしゃいます。この環境の活用なくして採用試験に打ち勝つのは、不可能だと思います。私も不安なことがたくさんありましたが、先生方やセンターの方の優しい声に助けられ、無事に合格することができました。また、ICCのみならず関西外大には教員採用試験を終えた4年生もいますので、いつでもなんでも相談してください！

③自分のペースを固持すること

私は、筆記試験の対策をする中で大切にしていたことは、どんなことがあっても自分の勉強ペースを変えないということでした。どんなしんどく辛い時でも自分の決めた範囲はやりきる、と自分に言い聞かせていました。私は自分のペースを決めながら、同じ問題集を10回はしたと思います。また、問題を解くと同時に大阪府の傾向を分析し、自分の二ガテ範囲を中心に勉強していました。

取り組んできたことを3つ紹介させていただきましたが、「絶対に小学校教員になるんだ！」という想いを糧に取り組んでいました。この想いをもつことが教員採用試験を笑顔で乗り切る秘訣だと思います。ボランティアや教育実習といった実際の教育現場での気づきや学び、大学での経験を通して、これから待ち受ける教員採用試験に打ち勝ってください！心から応援しています！！ありがとうございました。

竹村 美優 さん 兵庫県 中学校 英語科 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科 4年生

はじめまして。兵庫県教員採用試験において、中学校英語科教員として合格をいただいた竹村美優です。合格したら、今までとは異なる合格体験記を書こうと決めていたので、今書いていることを嬉しく思います。

合格者の方々は、早期から勉強を始め、ボランティア・夜スペ・自主ゼミに積極的に参加し、仲間と共に・・・というのが多いように思います、が、私は逆です。というのも、長期留学からの帰国後すぐ教育実習だったこともあり、一次試験がある7月になってから、本格的に勉強を始めました。過去問を購入したのも、試験三週間前。そして、人と比べて自信を失いやすい私は、一人で採用試験の勉強をすることにしました。こうした事実だけ見ると、本当に運が良かったのだと思いますが、私なりに自分が合格できた理由を述べたいと思います。

まず一つ目は、英語キャリア学部で学び、4年間耐え続けたことです。英語キャリア学部は、留学準備もあるため忙しく、教職課程も履修していたので、本当に大変でした。話す時間が長くなるので割愛しますが、そんなつらい日々を乗り越えられたから、多少のことではくたばらないという自信が付きました。

二つ目は、短い時間でもとにかくやり遂げる！という気持ちがあったことです。この期間家から出ずに勉強しました。しんどいのもたった数週間、他の人達はずっと勉強してきているのだから、数週間も頑張れないなら教員にはなれない、と言い聞かせながら。具体的にしたことは、過去問を網羅すること。選択肢の正答以外も覚えるよう努めました。とにかく時間がなかったので、一冊の参考書を何度もやりました。

三つめは、日々を大切にすることです。最初に述べたように、一人で勉強をしていたので面接の練習はしていません。しかし、日頃から考える習慣を持つようにしていたので、それを自分の言葉で簡潔に伝えるよう努めました。また、最後に実施された英語面接は、試験後に手ごたえあったので、大学で経験した授業や留学生活は糧になったのだと実感しました。なので、みなさん大学の授業や毎日起こるすべてのことを経験と思って、大切にしてください。最後は自分との戦いです。一人でも合格はできます。頑張ってください。

ここまで読んでいただきありがとうございました。並びに、留学中にも支えてくれた家族には一番感謝しています。そして、私が合格すると信じていてくれた友達、英キャリで教職取り続けた6人の仲間、お世話になった方々に感謝しています。

中村 翔 さん 千葉県/大阪府 中学校

英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

みなさん、こんにちは。外国語学部英米語学科4年生の中村翔と申します。今年度の教員採用試験で千葉県と大阪府から採用していただくことができました。そこで、今年私自身がしてきたこと、教員採用試験を終えて感じたことを、来年度の教員採用試験に向けて色々取り組んでいる皆さんに少しでも参考にな

ればと思い、綴らせていただきます。

まず私がしてきたこととして、1～3月は英語だけを勉強しました。教員になってからは専門性が必要になるので、教職教養、面接練習を完全に無視して毎日英語だけ勉強し、その間にある TOEIC などを受験しました。それだけ英語に時間を使うと、ほかの勉強の時間が足りなくなると思いがちですが、結局英語は最後まで必要になるので時間をたっぷり使ってもいいと思います。その資格を使って加点を狙いに行くのも戦術としてはアリです。自分自身もその加点のおかげで助けられました。4月以降は自主ゼミの友人、先輩と共に英語ディスカッション、集団討論、模擬授業など一人ではできないことを学校で対策し、夜スベ、サマスベにも全て参加しました、今試験を終えてみて教員採用試験は情報戦だと痛感しました、そこでしか得られない情報を持ち帰ることは、非常に有益です。参加することをおすすめします。その一方家で一人になった時、教職教養を勉強しました。教職教養の勉強のポイントとしては、とりあえず4～5年自分が受けようとする県の過去問を解いてみて傾向を把握すること、その上でその県が好きな出題範囲を集中的に勉強することです。例えば大阪府で言うと、学習指導要領、人権、教育法規は毎年必ず出題されていたので、そこは徹底的に勉強しました。最初何の対策もないまま過去問から勉強し始めるのは苦痛で不安になると思いますが、範囲が膨大な中傾向をつかむことで自分が何を勉強するのか見えてくるので参考にしてみてください。

教員採用試験を終えてみて、友人や先生方のサポートがなければ自分は何もできなかったと心から感じています。振り返ってみるとしんどかったと思うと同時に、楽しかったことや、その期間でしか経験できないこと、新しい出会いがあったと笑ってしまいます。皆さんの人生の中で忘れられない1年になると思いますので、毎日を大切に、個人ではなくみんなで乗り切ってください。不安になったときは友達や先輩、先生方に相談してみてもいいのではないでしょうか、頼りになるはずですよ。

小川聡美 さん 岐阜県 中学校 英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

皆さんこんにちは！外国語学部英米語学科4回生の小川聡美です。長くて短い教員採用試験も終わり、来年度から地元岐阜県の中学校の教員として働かせていただくことになりました。突然ですが、私は教員をみだりにあたって多くの寄り道をしてきました。その話から始めたいと思います。

私は国際関係コースを選択しており、教育課程をとりつつも国際開発学のほうに魅力を感じていました。ベトナムでの自閉症児童の施設でのボランティアを通して教育の大切さを痛感しつつも3回生になっても将来の道を決め兼ねており、留学先では家庭教師ボランティアをしつつ国際開発学のカンファレンスや日本人向けの就職関係のイベントにも参加し、その反面休暇中はたくさん旅行をしていました。焦りからふらふらしてしまう時期が長く、気が付いたら突きつけられた現実とは帰国、そして教員採用試験まで約二か月でした。もちろん、その後はよそ見をせず本気で教員を目指すことになるのですが、その私の経験を踏まえて私がしみじみと思うことを三つ書かせていただきます。皆さんの参考にできれば幸いです。

まず一つ目に、頼れる先生と励ましあえる仲間の存在の大切さです。残り二か月のタイムリミットの中で焦りまくっていた私は、友人を通じてたまたま角野先生に出会い、先生の授業は受けたことがなかった

のですが、オフィスにたくさん通い、多くの情報や対策、そして多くの激励の言葉をいただきました。そして同じ状況で同じ目標を持つ仲間と日々励まし合って対策をすることで不安もなくなり、目の前のことだけに集中することができました。なにより、関西外大の情報力の強さはよく他大学の学生にも称賛されていた通り素晴らしいものでした。夜スペやサマスペをはじめとする面接や模擬授業の対策、毎回の個々の試験終了後の情報交換、そして先輩方も含めて皆で実践練習など外大コミュニティの強さを実感しました。

まず二つ目に、自分自身を振り返り、自信をつけるネタを沢山見つけることです。教員一本ですっと目ざしてきた人とは違い、私は多くの寄り道をしたと感じています。しかし、それでも岐阜県面接では私が経験したことや身につけたことはとても役立ちました。私の場合、今まで自分がやってきたことを教職関係以外も含めて全て思い出し、教員を目ざすにあたって必要な要素と結び付けていくと予想以上に繋がる内容が出てきました。それによって面接でどのようにアピールし、どこに焦点を置いて話を展開していけばよいかわかりやすくなりました。このように、自分が気づかぬうちに身につけている力を発見することで面接はもちろん、これからも教員を目ざすにあたって自分の自信にもつながっていくと思います。

そして三つ目に、自ら進んで行動していくことの大切さです。ボランティア経験のない人や留学中の人、そして留学経験のない人、様々な点で皆さんが焦り悩む時もあると思います。それでも、自分が今いる環境でできることを見つけて積極的に挑戦して他の人にはできない自分自身の経験を積み重ねていくことで新たな視野を広げていけると思います。自己分析の話と繋がっているのですが、私の場合で言えば留学中の様々なボランティア活動やカンファレンス参加など、自分の力で何かに挑戦したことは今までとは違う視野で物事を見るようになり、私の教育観に影響を与え、自分の自信に繋がりました。また、何より教育実習でも生徒に多種多様な話題を提供することができました。

以上、信頼できる先生や仲間との関係を大切にすること、原動力になる付加価値を見つけること、正解を探すより常に挑戦し続けることの三つのことについて書かせていただきました。最後になりましたが、私が何か課題に直面したときにいつも掲げている言葉を皆さんへの応援の言葉にしたいと思います。” If you were born without wings, do nothing to prevent them from growing. - Coco Chanel”（翼を持たずに生まれてきたのなら、翼を生やすためにどんな障害も乗り越えなさい）私は来年からもどんどん新しいことに挑戦していきたいと思います。これから教員採用試験に向かう皆さんが個々の持つ力をのばし、みんなで合格していけるように祈っています。

森永絢子 さん 山口県 中学校 英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

みなさん、こんにちは。山口県の中学校英語科で合格をいただきました、外国語学部英米語学科4年、森永絢子です。中学生の時からぼんやりと英語教員になりたいと考えていて、大学生になってやっと本気で中学校教員を目ざすことを決めました。自分の故郷であり、教員になりたいと思った場所で合格できて感激しています。そして、私が今みなさんに伝えたいことは2つあります。1つ目は何かを言い訳にして

サボらないということ、2つ目は同じ目標を持つ仲間と一緒に学ぶことの大切さです。

始めに、「何かを言い訳にしてサボらない」ということについて説明します。みなさん、辛くなって何かをあきらめたり、あきらめかけたりした経験はありませんか。私は、入学当初から女子ラクロス部に所属していました。部活は週4日で、部活をしていない人と比べると、やはり、自分に使える時間は限られていました。しかし、「部活をしているから勉強する時間が他の人より少ない。」というのは、ただの勉強しない言い訳でしかありませんでした。部活は自分が好きでやっているものだし、時間がないなら作ればいい、絶対に好きなことを言い訳にしないと決めて、どれだけしんどくても、空き時間を使ったり、朝早く起きたりして、毎日勉強は欠かしませんでした、みなさんも、教採の勉強をする時に、少なまけてしまう期間があるかもしれません。しかし、バイトや部活、または授業などを言い訳にしないでください。本気で教員になりたいなら、人の倍以上、そして効率よく、勉強をするべきだと私は思います。

次に、「同じ目標を持つ仲間と一緒に学ぶ」ということです。これは、教採対策には1番大切なことだと自信をもって言うことができます。私は今まで、1人で図書館に引きこもって黙々と勉強するほうが合っていました。しかし、教採は団体戦です。たとえば、私が教採対策でよく行っていたのは、何人かでグループを作って、ある教育課題について討議します。そこでは、自分では思いつかなかった意見や、新しい発想に出会えます。そして、それが自分の知識になります。その結果、1人では薄っぺらかった意見が深く濃い意見となり、小論文や集団討論の際には、すらすらと論じることが出来ます。また、同じ目標を持つ仲間と一緒に勉強することによって、教採に対する不安も取り除かれ、心が疲れてしまった時にも支えてくれる仲間が出来ます。私はたくさんの仲間に支えられて、そのおかげで最後まで頑張ることができ、最終的に合格することができました。合格した人のほとんどは夜スペやサマスペを受講したり、自主ゼミを作ったりして、仲間と一緒に勉強をしていました。だから、是非みなさんも同じ目標を持つ仲間と一緒に勉強してください。

最後になりましたが、みなさんが教員になれるよう、心から応援しています。同じ目標を持つ仲間と一緒に、後悔の無いよう、最後まで全力で頑張ってください。

市橋 菜津美さん 大阪府 高等学校 英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

はじめまして！英米語学科4回生の市橋菜津美です。このたび、人や縁に恵まれて大阪府の高校教員として採用していただきました。私が教師になりたいとはっきりと思い描いたのは高校からです。地元の総合学科校出身で、周りから関西外大に合格したことに驚かれることが多かった私だったので、正直自分がここまで来られるとは微塵も思っていませんでした。スタートラインは皆と同じ、もしくは皆よりも下だったかもしれません。ではなぜここまで来られたか、自分の中で大切にしていたことをまとめたいと思います。

まず初めに大切なことは、はっきりと目標を持っておくことです。「自分はこんな先生になる」という目標を持ち、そこに向かって少しずつでも前に進んでいくこと。もちろん皆さんがこれを読んでくれるのはその目標を持っているからこそだと思いますが、その目標を意識して日々を過ごすこと、そうする

ことで1日1日の濃さが変わります。出会う人・なんとなく受けている授業から得るものがたくさんあります。自分の今までの経験や出会いは将来の自分の基礎や力になります。私自身、留学やボランティアの経験・出会い・学びと気づきは強みになっていると感じますし、教採での強みにもなりました。

そして次に、それらの経験を自分の言葉で語れるようになることです。自分の経験は自分にしかなくて、他の人とは違います。年齢や経験を問わずたくさんの方が同じ自治体の教採を受けます。その中で自分らしさや自分にしかない強さを見せることが大切だと思います。みんなと同じ事であったとしても、それを言語化できる・できないでは大きく違ってくるし、自分の言葉で語ることができるとそれはもう自分だけのものです。それらを武器として面接に挑んでください。たった数分の面接で合否が別かれてしまうので、先生や友達と一緒に準備や練習をして後悔のないように挑んでください。

最後に、当たり前のことですが勉強です。大阪府の場合ですが、一次の教職教養を突破しなければ面接を受けることも叶いませんし、最終の教科専門を突破しなければ合格はありません。先生方や教職教育センターと一緒に勉強できる機会をたくさん与えてくれていて、それをうまく活用して、折れそうになった時や自分には無理だと思った時には周りの人を頼ってください。今は漠然と不安でも、そのうちに見えてくるものがあります。一人きりでがんばる時間も大切ですが、同じくらいに周りを知ったり一緒に取り組むことも大切です。私たち4回生にも遠慮なく頼ってください。いつでも待っています！皆さんが目標を達成できることを心から願っています。

浅野 隆 さん 岡山県/千葉県 中学校

英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

教員になって何がしたいのか。私は常にこのことを考えて教員採用試験に向けて取り組んできました。もちろん、受かりたいという気持ちを持つことは当たり前ですが、その先にある自分はどうしたいのか、どんな教員になりたいのかを考えることで、より強い気持ちを持つことができます。

これから、私が教員採用試験のために取り組んだことを二点お話しします。

一つ目は、英語資格の取得です。私は教員採用試験が始まるまでに TOEIC880 点を取りました。これにより、大阪府では一次試験で加点、岡山県では一次試験の筆記試験免除という枠で受験することができました。これによって負担は軽くなり、何よりも自分に自信を持って教員採用試験に取り組むことができました。気持ちの面での自信があることは非常に大切なことだと思います。また、この枠で受験している人数はあまり多くありません。英語資格が自分の付加価値となり、教員採用試験が始まる時点で他の受験者と大きな差をつけることができます。英語教員になると死ぬまで英語と付き合います。後で勉強するより、今時間がある間に英語に磨きをかけることが合格への道だと思います。ぜひ、みなさんも目に見える資格を取得して教員採用試験に挑んでください！

二つ目は、仲間を作ることです。私は3回生の前期まで一人で勉強をしていました。後期からゼミに入り同じ志をもつ仲間と勉強を始めたことで、質が上がりました。結局勉強するのは自分なので一人の戦いですが、隣に仲間がいるのといないのでは全く違います。一緒に勉強をして、話して、笑うことでやる気が出ます。苦労を共に経験した仲間はこれからの人生でも大切な存在になると信じています。

私は短大から編入してきました。はじめは不安もありましたが、実際は編入でも関係ありませんでした。教員になりたいという気持ちを持つことで、勉強し、先生とつながり、横のつながりもできると思います。編入生のみなさんは心配せず自信をもってください。

最後に。合格のための裏技はないと思います。小さな積み重ねが実を結びます。最後まであきらめずにファイトしてください！

渡邊 由惟さん 愛知県 中学校 合格

**外国語学部スペイン語学科 平成 27 年 3 月卒業
(科目等履修生)**

皆さん、こんにちは。科目等履修生の渡邊由惟と申します。この度愛知県の中学校で働かせていただくことになりました。この場をお借りして、皆さんに何か役に立つことが伝えられればと、メッセージを書かせていただきます。私は在学中スペイン語学科に在籍していましたので、特にスペイン語学科の後輩に読んでいただきたいと思います。

まず、スペイン語学科の学生で教職をとっている学生がどれだけいるか、皆さんご存知ですか？私の学年では4回生まで教職を続けたのは、知っている限りで5人です。そのうち4回生の時に採用試験を受けたのは0人でした。また、4人は全員留学に1年行っており、4年間では教職を終えられず、来年度以降に科目等履修生になっています。正直、スペイン語学科で教師を目指すなら、中途半端な気持ちでは続けられないのです。理由は2つあると思います。

まず1つは英語とスペイン語の両立の難しさです。大学の授業のほとんどはスペイン語ですが、毎年決められた点数をどれか英語の検定で越えなくては教職を続けられません。もちろん、英語教員になるのですから当たり前ですが、スペイン語で常に新しいことを学び続け、それで頭いっぱいになっているなかで、自分で英語の勉強をしなくてはいけないというのは簡単なことではありません。やはり、言語を学ぶ上で継続はとても大切で、少しでもスペイン語だけに集中してしまうと、すぐに英語のレベルが下がってしまいます。また、スペルや発音もスペイン語につられてしまったりしてしまいます。なので、しっかり両立させなければいけません。

次に、授業の多さです。スペイン語学科では英語教員とスペイン語教員の免許を取得できるため、単純に英語の教員免許を取る人の倍近くの授業を受け、単位を取らなくてはいけません。そういったことから、スペイン語学科で4回生まで教職を続ける学生が少ないのです。

しかし、私はスペイン語学科ならではの強みや、いいところがあると思うからこそ、ここまで教職を諦めず、念願の教師になることができました。まず、スペイン語教員免許を取得できる大学は全国でも珍しく、持っていて損することはありません。また、スペイン語を話せるということで、愛知県や浜松市、三重県などでの教員採用試験では、バイリンガル選考というものがあり、一般選考よりも待遇されるところがあります。私は今回、愛知県と浜松市だけを受験しました。実は今まで兵庫県神戸市で生まれ育ち、他のところに住んだことはありません。しかし、バイリンガル選考があるところでは、それだけスペイン語を話せる教員の需要が高いということから、私が教師をするなら少しでも需要の高い地域で働きたい、「スペイン語が話せる私だからこそ。」という強い使命感で神戸市や兵庫県は受験しませんでした。今回採用していただけた

のにも、スペイン語が大きく影響していたのだらうと思います。

留学やアルバイト、サークルなどいろいろ大学在学中にしたいことはあると思います。ぜひしたいことはどれも諦めず、全部やりきって欲しいと思います。そうすることで4年間で免許を取れなくても、科目等履修生になって他の人たちよりも長く教職を学び、様々な経験を積むことで、より魅力のある教師になれると思います。「これからたくさんの生徒と接するときに必ず役に立つことがあるはず。」と信じ、いろいろ挑戦して下さい。これから、たくさんのスペイン語学科の後輩たちが教師になってくれたら嬉しいです。ぜひ頑張ってください。

シリーズ⑩ 「心の窓を少し開いて！」

短期大学部 教授 明石一朗

家庭の教育力

保護者の子どもへの願いは、「元気で、かしこく、やさしく、人に迷惑かけんと、将来、食いはぐれがないこと」だ。簡潔に言えば、子どもの「教育・就職・結婚」といった「人生3つの山場」を無事クリアできれば「ホッと」する。

教育は、未来の大人である子どもたちに「自己実現」と「社会貢献」の力をつけるためにある。自分のことが自分でできて、他者の力になれる人間、「自立」と「共生」をめざす。

なかでも家庭教育は、子どもの成長の節目節目に「手をかける・声をかける・心にかかる」などの力点が変わる。

乳幼児期（生後から就学前まで）は、生理的な働きのリズムづけや生活の習慣づけが大事で、人との基本的な信頼関係や安心して生きる環境づくりが第1である。

児童期（小学校）は、授業による学習の習慣づけや友人関係の基礎が形成され、自尊感情の育成などが大切である。

青年期（中学・高校）は、「嵐の時代」で、心身の成長と共に社会的なきまり、行動様式の規範を確立し、将来の夢や志を育む時期である。

家庭における「教育力」には2つある。

一つは、意識的なもので、子どもへの言葉かけや叱ったり、褒めたりして「挨拶・返事・態度」を躾けることである。

二つは、無意識的なもので、家族の会話、保護者の喜んだり悲しんだりする態度、来客のもてなし、新聞を読んだり学習する様子等、家庭生活全般の「文化」である。家庭でなければならない教育は毎日の衣食住をはじめとした「寝食」である。子どもは家族の一員として家庭の「食事」「会話」「役割分担」などの関わりの中で育つ。

家庭の教育力は、子どもにとって「気持ちがいい関係」「居心地がいい」ことが前提で、「家が楽しい」「家族に信頼されている」子どもほど、学校生活も充実する傾向が強い。反対に家庭で保護者に愛情を与えられなかったり、「こ食」（孤食・固食・粉食・個食・小食・濃食）などの食事や睡眠の乱れなど、生活リ

ズムの不調な子どもほど、学習困難な傾向にあることが指摘されている。家庭における「家族の会話・会食」や「お手伝い」の経験なども子どもの成長にとって大きなポイントである。

編集後記——教職教育センターより——

11月14日は、スーパームーンでした。これは、月が地球に最も近づいたときで、月の軌道が真円ではなく楕円軌道であるため、起こる現象です。

月の引力について、今年になりある研究結果が発表されました。その内容は、月の引力によって海の水位が変わる（潮の満ち引き）ように、地中の圧力にも変化が起き、この力が大地震と関係する可能性があるというものです。

改めて、自然の恐ろしさを感じるとともに、その凄さに驚きを感じます。